

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千九百八十五號

海軍大臣官房

昭和十七年一月二日 (金)

○令 達

昭和十七年一月二日

海軍大臣

官房機密第三號

昭和十六年官房機密第九〇九七號ノ四中「明石山丸及第二號東光丸」ヲ「及明石山丸」ニ改ム

昭和十七年一月一日

海軍大臣

(参照) 昭和十六年官房機密第九〇九七號ノ四八日産丸等ノ經費整理ニ關スル件ナリ

官房機密第四號

特設艦船部隊令ニ依ル特設艦船(特設工作艦ヲ除ク)ニ乗組ノ工員ニ對スル取扱ニ關シテハ自今特ニ定ムルモノノ外昭和十四年官房第五一〇七號特務艦明石ヨ於ケル工員ノ取扱ニ關スル規定ヲ準用ス但シ同號第三號(チ)被服物品申別表ニ依リ貸與スルモノニ付テハ別ニ定ムル所ニ依ル

○通 牒

(参照) 昭和十四年十月三日海軍公報

官房機密第五號

昭和十七年一月二日

海軍次官

各鎮守府司令長官殿

二年現役技術科士官及同少尉候補生ノ教育ニ關スル件申進

昭和十七年度任官(採用)豫定ノ二年現役技術科士官及同少尉候補生ノ教育ニ關シテハ昭和十六年達第三百七十八號海軍技術中尉及技術少尉候補生實務練習規則ヲ準用スルノ外左記ノ通定メラレ候

海軍公報 (部内限) 第三千九百八十五號 昭和十七年一月二日

一 實施區分

記

種別	實施場所	專修特別	實施期間
講	横須賀海軍砲術學校	造船科(少尉候補生)	約二ヶ月
習	海軍工機學校	造船科(少尉候補生ヲ除ク) 機科(燃料ヲ含ム) 兵科(航本系少尉候補生)	約二ヶ月
實	各海軍工廠、各海軍火藥廠及海軍技術研究所 海軍航空技術廠及各海軍航空廠	各科(艦本系)	基本應用共約三ヶ月宛
習	各海軍燃料廠	造機科(燃料)	基本應用共約三ヶ月宛
備	一 實習ハ講習ニ引續キ基本實習、應用實習ノ順序ニ特別ノ事情ナキ限リ同一場所ニ於テ實施スルモノトス		
考	二 應用實習終了後ハ概ネ其ノ廳ニ於テ實務ニ服スルモノトス		

- 二 講習中ハ横須賀鎮守府附トシ實習中ハ各鎮守府附トシテ配員スルモノトス
- 三 其ノ他必要ナル事項ハ各鎮守府司令長官ノ定ムル所ニ依ル

兵備勞第二八號

昭和十七年一月二日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

中等學校最高學年在學者ノ職業實習ニ

關スル件申進

首題ノ件實施ニ關シ別途文部、厚生兩省ヨリ地方廳宛  
通牒アリタル處之ガ部内ニ於ケル取扱ハ左記ニ依ルコ  
トニ定メラレ候

記

一 職業實習許可範圍

左ニ掲グル學校ノ最高學年ニ在學シ卒業後就職希望  
應ニ於テ實習セントスル者ナルコト

(一) 中學校

修業年限五年ノ高等女學校

(二) 專門學校入學者檢定規定ニ依リ卒業者ニ付文部  
大臣ノ指定シタル學校ニシテ前各號ニ準ズルモノ

(三) (夜間授業ノ學校ヲ除ク)  
高等女學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業  
年限三年ノ高等女學校專攻科及高等科

二 職業實習許可時期

昭和十七年一月以降トス

三 身上取扱

採用シタルモノトシテ取扱フコト  
但シ現員徵用ハナサザルコト

四 學校トノ連絡

概ネ左ノ各號ニ依ルコト

(一) 毎月ノ勤務狀況竝ニ成績ヲ學校長宛通知ス  
實習生ヨリ學校ニ提出スル報告ハ査閲シ要スレ  
ハ所見ヲ附記ス

(二) 學校ヨリノ召集ハ卒業式參列ノ場合ニ限り許可  
ス

(三) 卒業期迄ニ中途實習ヲ爲サザルニ至リタル場合  
ハ直ニ學校宛通知ス

○ 辭令

海軍主計大尉 松井 收

軍艦秋津洲艦裝員ニ要スル經費支拂ノ爲臨時資金前  
渡官吏ヲ命ス(一) 支山官 海軍省經理局長)

第二課勤務ヲ命ス(一) 海軍中佐 佐藤 述

海軍運輸部)

○ 雜款

○ 郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

吳郵便局氣付 海軍鰐原部隊 (第一 防衛班)

○事務所撤去  
第二十五號驅潜艇艦裝員事務所ヲ昭和十六年十二月二十九日撤去セリ

○雜役船飛鳥ノ給與及其ノ他ノ經費支拂ハ第十三砲艦隊附主計科士官ヲシテ掌理セシメ居リタル處一月一日以降鳥羽乘組主計科士官ヲシテ掌理セシム  
(支那方面艦隊司令長官)

○移轉  
徳島海軍航空隊(假稱)設立準備委員事務所ヲ一月十日徳島縣板野郡松茂村ニ移轉ス  
(徳島海軍航空隊(假稱)設立準備委員)

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百八十六號

昭和十七年一月六日(火)  
海軍大臣官房

## ○ 通 牒

官房第六七八八號

昭和十六年十二月三十一日



海軍省 副官

各 廳 長 殿

臨時郵便取縮令ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通遞信次官ヨリ海軍次官宛通牒  
有之候條了知相成度

(別紙)

外郵第二九六九號

昭和十六年十二月二十日

遞 信 次 官

海軍次官殿

臨時郵便取縮令ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ昭和十六年十月四日附外郵第二二三八  
號ヲ以テ帝國ノ官衙(陸海軍ノ部隊及學校ヲ含ム)差

出ニ係ル郵便物ニシテ所定ノ表示ヲ爲シタルモノニハ  
同日附遞信省令第九十號臨時郵便取縮令第一條ノ命令  
ニ關スル件第一項及同第九十一號臨時郵便取縮令第三  
條ノ命令ニ關スル件第一條乃至第三條ノ規定ヲ適用セ  
ザル旨及御通報置候處今般米、英兩國トノ開戦ニヨリ  
本月十一日右遞信省令改正セラレ候ニ伴ヒ斯ノ種郵便  
物ニハ臨時郵便取縮令第一條ノ命令ニ關スル件(本月  
十一日遞信省令第百七號)第一條及第二條並ニ臨時郵  
便取縮令第三條ノ命令ニ關スル件(十月四日遞信省令  
第九十一號及本月十一日同第百八號)第一條乃至第三  
條ノ規定ヲ適用セザルコトニ改定其ノ他ニ付テハ從來  
ノ通ニ有之候條御了知相成度候  
追テ貴軍關係各官衙ニ對シテハ貴官ヨリ右ノ趣御通  
達相煩度

(昭和十六年十月四日附及同年十二月十一日附官報參照)

官房機密第五二號

昭和十七年一月六日

海軍公報(部内限)第三千九百八十六號

昭和十七年一月六日

五

1006

各廳長 殿

海軍省 副官

米國及英帝國以外ノ對日宣戰(國交斷絶)  
國ニ關スル件通牒

首題ノ件別表ノ通

軍需糧第一號

昭和十七年一月六日

海軍省軍需局長  
海軍省經理局長

關係各廳長 殿

生獸魚肉換給品ノ量額中改正ノ件通牒

昭和十六年軍需糧第一四三號首題量額ノ件中乾魚肉ノ  
項ヲ左記ノ通改メラレ候  
記

乾 魚 肉 七〇

(鯉節) 三〇

(參照) 軍需糧第一四三號(昭和十六年八月二十日海軍公報號外)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

佐世保郵便局氣付 第二海軍工作部  
(第二海軍工作部)

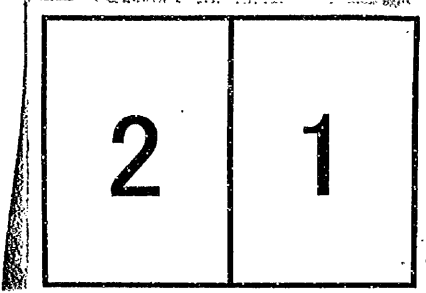
○ 移轉

第一百一海軍工作部ハ一月十五日ヨリ佐世保海軍工廠内  
ニ移轉ス

○ 正誤(濟)

昭和十六年十二月二十七日通牒欄「兵備第三五四號」  
ハ「兵備二第三五四號」ノ、同二十九日「軍務第二三  
號」ハ「軍務三第二三號」ノ孰モ誤

## 分割撮影ターゲット

分割した部分の撮影順序	
分割撮影した理由	A 3版以上のため
文書等名	米国及英帝国以外の対日宣戦 (国交断絶)国一覽表
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	

(別表)

米國及英帝國以外ノ對日宣戰(國交斷絶) 國一覽表

(昭和十七年一月六日海軍公報(部内限))

(昭和一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、外務省調査部)

國名	宣戰(國交斷絶)等	同上日附	通告日附	備考
メキシコ	國交斷絶		一一、一一	在京墨公使宛本國政府訓令日附ハ一二、八ナリ
ガラマラ	宣戰布告セルモノト認ム			
サルバドル	宣戰布告セルモノト情報アリ			
ホンデニラス	宣戰布告セルモノト認ム			
ニカラグア	同			
コスタリカ	宣戰布告セルモノト認メ			
パナマ	宣戰布告	一一、九	一一、二七	宣戰ノ日附ハ石射大使ヨリノ電報ニヨリ
キューバ	戰爭狀態發生	一一、八	一一、二二	但シ宣戰布告ニ非ザル旨附記在京獨大使ヨリノ通報
ハイチ	宣戰布告	一一、八	一一、二〇	
ドミニカ	戰爭狀態發生	一一、八	一一、二二	在京獨大使ヨリノ通報
ドミニカ	國交斷絶	一一、八		
ド・ゴール政權	宣戰布告			新聞報
波蘭	宣戰布告			新聞報
チエコ	同			同
和蘭	同	一一、八	一一、一〇	
白耳義	國交斷絶		一一、一八	重慶放送
重慶政府	宣戰布告			
イラク	國交斷絶	一一、一六		

(備考第一)

一、在本邦敵國利益ノ代表國

(敵國名)

米 本 國  
英 本 國  
加 州  
南アフリカ  
和 蘭  
エチオピア  
メキシコ  
パナマ

(敵國利益ノ代表國)

瑞 西  
アルゼンティン  
同 右  
同 右  
瑞 西  
瑞 西  
瑞 西  
瑞 西  
瑞 西

(昭和一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、外務省調査部)

(備考第二)

敵國ニ於ケル帝國ノ利益保護ニ關スル件

昭和十六年十二月二十四日現在ニ於ケル狀況左ノ通

一、スペイン

左記(一)乃至(四)ノ地域ニ於ケル我方ノ利益保護依頼ノ申入ヲ受諾ス、スペインニ追加依頼シタルコロンビ

ヤニ付テハ未タ回答ニ接セス

(一) 米 本 國

(二) カ ナ ダ

(三) キ ューバ

(四) パ ナ マ

(五) コロンビヤ

二、瑞 典

左ノ地域ニ於ケル我方ノ利益保護依頼ノ申入ヲ受諾シ既ニ出先官憲ニ訓令済

(一) 英帝國ノ内

(二) 英領ノ内

(三) 英領ノ内

(四) 英領ノ内

(五) 英領ノ内

(六) 英領ノ内

(七) 英領ノ内

(八) 英領ノ内

(九) 英領ノ内

(一〇) 英領ノ内

(一一) 英領ノ内

(一二) 英領ノ内





(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第三千九百八十七號

海軍大臣官房

昭和十七年二月七日(火)

○令 達

官房機密第一〇八二一號ノ二  
當分ノ間第三艦隊及南遣艦隊所屬特設廳ノ支拂ニ屬ス  
ル經費ハ海軍會計規程第三十九條別表第四(丙)ノ區  
分ニ拘ラズ艦隊經費トス  
昭和十七年十二月二十五日

海軍大臣

官房機密第一二六九一號  
第六十五警備隊職員中特務士官以下ハ必要ニ應ジ各鎮  
守府在籍者ヲ以テ補充スルコトヲ得  
昭和十六年十二月三十一日

海軍大臣

官房機密第四號ノ二  
特設艦隊(特設艦隊)ノ工員ニハ戰地ニ在ルトキニ限り經營備  
入ニ準シ海軍給與令施行細則第九十六條ニ依リ貸與ス

ルノ外左ノ被服物品(兵備品)ヲ貸與スルコトヲ得  
工員一人ニ付貸與數

- 雨 衣 一個 半 靴 一組
  - 防著作業衣袴 二組 掃 除 服 二個
- 昭和十七年一月二日

海軍大臣

官房機密第五四號  
本年一月三日現在南遣艦隊司令部職員タル者ハ特ニ發  
令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ第一南遣艦  
隊司令部ノ各相當職員ニ補命セララル義ト心得ベシ  
昭和十七年一月三日

海軍大臣

官房機密第一一四號  
驅逐隊、水雷隊、掃海隊及驅潛隊ニ於テ配員ノ關係上  
被服、糧食及戰時特別給與品ノ各艦艇別取扱整理困難

海軍 (部内限) 第三千九百八十七號 昭和十七年一月七日 七

ナル場合ニハ當分ノ間所轄長ハ海軍兵備品會計規程別表備考第七號ノ規定ニ拘ラズ之ヲ隊ニ於テ一併整理セシムルコトヲ得

昭和十七年一月七日

海軍大臣

○通牒

海人機密第八四號ノ二

昭和十六年十二月二十六日

海軍省人事局長

各廳長殿

戰死者、戰傷病死者、戰傷病者ノ發表ニ關スル件通牒

十二月二十六日現在左記範圍ニ於ケル戰死者、戰傷病死者、戰傷病者ノ遺家族ニ對スル通知ハ進級並ニ彼位ノ手續終了セハ差支無之候

記

- 一 疾風、如月、東雲關係
- 二 長月、第七號掃海艇、第十七號掃海艇關係
- 三 十二月二十六日迄ニ於ケル航空機關係(布哇及馬)

來方面ヲ除ク)

四 十二月二十六日迄ニ於ケル特設艦船關係(特設軍艦ヲ除ク)

五 十二月二十六日迄ニ於ケル陸戰隊關係

艦本機密第一號ノ九一

昭和十七年一月六日

海軍艦政本部

横須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍工廠  
横須賀、吳、佐世保、舞鶴海軍軍需部 御中  
東京、大阪、神戸、監督官事務所  
名古屋、長崎、浦賀

直買兵器假名稱使用追加ノ件通知中改正ノ件照會

十一月二十九日艦本機密第一號ノ一一五六一首題通知中一部左記ノ通改正致候

記

一 制式名稱中

(イ) 各品名中「附屬具補用品共」ヲ「附屬品補用品共」ニ改ム

(ロ) 「五十口径二號二十糎砲 射撃塔旋回用整動機」同「二五型(A B 管共)」ノ型別ヲ「一・二五型(A B 管共)」ニ改ム

(ハ) 「方位盤(十二種七砲用)機」 K二・五型(A・B筐共)ヲ  
 整 動 機 同  
 「方位盤(十二種七砲)用機」 K二・五型(A・B筐共)ニ改  
 整 動 機 同

二 假名稱中

(イ) 「セ二〇(射塔旋)金物K二二五A B」ヲ「セ二〇(射塔旋)金物K二二五A B」ニ改ム  
 (ロ) 「セ二二高(俯)金物K二五A B」ヲ「セ二二高(俯)金物K二・五A B」ニ改ム

航本機密第三三三號

昭和十七年一月六日

海軍航空本部長

第十一、第二十一海軍航空廠長  
 海軍航空技術廠長 殿

航空兵器修理材料供給ノ件通牒

航本機密第一二〇六九號首題通牒ニ左記ヲ追加ス

記

供給先

年額

○特設巡洋艦清澄丸 三〇〇圓  
 ○軍艦大和 八〇〇圓

海軍公報(部内限)第三千九百八十七號

昭和十七年一月七日

九

同	千代田	三〇〇圓	〇同
(参照) 昭和十六年四月二日海軍公報(部内限)			
航本機密兵電第二號			
昭和十七年一月七日			
海軍艦政本部長			
横須賀、吳、 佐世保、舞鶴、 大湊、鎮海、馬公			
海軍需部長殿			
電球代用供給ノ件通牒(機關長主管) 航海長主管			
首題ノ件在庫ノ狀況ニ依リ左記ノ通相互代用供給スベシ			
品名	記	事	
ビ式二燭電球 七V 〇四A	同	上下相互 代用供給 ノコト以 下同シ	
同	同		
同	同		
同	同		
同	同		

○ 辭令

(各通)

海軍艦政本部附築造  
兵監督官海軍技師

宮脇 茂

同

三上 英

海軍艦政本部附築造  
船監督官海軍技師

亀井 周三

神戸監理官ヲ命ス(昭和十六年海軍省)

海軍中佐 林 孝善

第二課勤務ヲ命ス(昭和十六年海軍省軍務局)

(各通)

海軍主計中尉 一色 正好

同 伊藤 乙郎

第四課勤務ヲ命ス(昭和十六年)

海軍主計大佐 倉永 辰熊

東京海軍監督官事務所及受持區域内ニ在ル艤裝員事務所ニ要スル俸給、旅費及手當支拂ノ爲資金前渡官吏ヲ命ス

海軍主計大佐 清水 信英

資金前渡官吏ヲ免ス(以上昭和十六年)支出官 海軍省  
經理局長)

○ 雜款

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

横須賀郵便局氣付 第九一五二  
(第二十四航空戰隊司令部)

一月十日迄ニ到達見込ノモノハ

吳海軍工廠内 第三百三海軍工作部事務所

共ノ後ハ 佐世保郵便局氣付  
(第三百三海軍工作部)

○試験問題發送

運用術 操舵 應急 特技兵(假稱) 銓衡試験問題

右十二月三十一日左記ノ通發送濟、未着又ハ別ニ必要ノ向ハ海軍航海學校ニ至急通知相成度

記

一 單獨試験施行豫定ノ各部ニハ直送

二 聯合試験用ノモノハ各海軍人事部及警備府宛送付

三 聯合試験參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲

聯合試験參加不能ノ向ニ對スル分トシテ單獨試験用

若干部各海軍人事部宛送付シ置ケリ  
(海軍航海學校)

○昭和十七年一月一日以降第十一航空艦隊司令部職員ノ諸給與ハ當司令部附主計科士官掌理ス  
給與關係書類ハ第十一航空艦隊司令部臨時分任出納官

吏宛送付セラレ度

(第十一航空艦隊司令部)

○事務引繼

東京海軍監督官事務所資金前渡官吏十二月二十九日事務引繼ヲ了ス

新任

海軍主計大佐 倉永 辰熊

前任

同 清水 信英

○事務所撤去

特設砲艦平壤丸事務所ヲ昭和十六年十二月二十九日撤去セリ

特設砲艦江祥丸事務所ヲ昭和十六年十二月二十九日撤去セリ

特設砲艦長進丸事務所ヲ昭和十六年十二月三十日撤去セリ

○移轉

第百三海軍工作部事務所ヲ一月五日吳海軍工廠内ニ移轉セリ

○正誤

本月三日令達欄官房機密第四號中「別表一一ニ依リ」ハ「別表二ニ依リ」ノ誤

海軍公報(部内限) 第三千九百八十七號 昭和十七年一月七日

1014

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限)第三千九百八十八號

海軍大臣官房

昭和十七年一月八日(木)

## ○通牒

航本機密第三四號

昭和十七年一月六日

海軍航空本部長  
海軍省經理局長

關係各廳長殿

消耗兵器直買及自動車修理豫算ニ關スル件  
通牒

當分ノ間外戦部隊ニ於テ左記令達ニ依リ直買又ハ修理ヲ爲ス場合ハ告知豫算額ニ拘ラズ實施シ差支ナキ儀ト了知相成度

追テ所要豫算ハ臨時軍事費、臨時軍事費、造船造兵及修理費、造兵費支辨トシ毎年三月末日現在ヲ以テ支拂額ヲ通報相成度

記

二 大正十一年官房第三九四六號

各航空隊及航空母艦供用ノ兵器(自動車)修理

海軍公報(部内限)第三千九百八十八號

昭和十七年一月八日

ノ件

二 昭和十一年官房第四四一號

各航空隊消耗兵器(航空廠整理兵器)中直接購買ノ件

三 昭和十一年官房第一七〇七號

航空寫真用乾板「フィルム」及印畫紙直買ノ件

四 昭和十三年官房第一六一六號

各艦船部隊航空消耗兵器中各種乾電池直買ノ件

## ○辭令

通信書記 河島 備

(各通)

同 池田 巖

同 西尾 修徳

同 木村 正太郎

同 三瓶 榮二

東京海軍通信隊附ヲ免シ高雄海軍通信隊附ヲ命ス  
(昭和十七年海軍省)

遞信局事務官	藤枝旗一郎	同	古澤 泰雄
同	林 知行	同	藤原 友助
通信書記	石垣清一郎	同	田上 研徹
同	戸塚 林	通信書記補	三津井 久男
同	廣瀬 豊雄	同	宮本 政義
同	五十嵐 政一	同	林 田 二
同	古屋 茂	東京海軍通信隊附ヲ命ス <small>(昭和十六年同)</small>	同
同	畑 和夫	通信書記	布引 八郎
通信書記補	濱田 民登	同	岩本 巖
同	宮下 昌三	同	石倉 晃
同	清水 二三夫	同	中山多喜夫
同	駒田 壽男	同	内田 明
同	高橋 俊雄	東京海軍通信隊附ヲ免シ第三海軍通信隊附ヲ命ス <small>(昭和十六年同)</small>	同
同	鈴木 信次	同	同
同	谷口 幸七	(各通)	海軍省兵備局附海軍屬 岩本 榮次郎
同	赤澤 善四郎	同	山田 芳三郎
同	飛鋪 辰二	兼海軍運輸部附ヲ命ス <small>(昭和十六年同)</small>	同
通信書記	横山 仁作	<small>第十一航空艦隊司令 部附海軍主計中尉</small> 清水 章	同
同	吉田 薫	第十一航空艦隊司令部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費	同
同	原間 貞次	支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス <small>(昭和十六年同)</small>	同
同	久保 義	官 海軍省經理局長)	同



東京軍法會議附舞鶴海軍刑務所附

(各通) 海軍警査兼海軍監獄看守 荻野 榮

同

安田 信夫

主トシテ舞鶴海軍刑務所ニ於テ服務スベシ(附註)東京軍法會議首席法務官

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今左ニ依リ發送相成度

佐世保郵便局氣付 海軍堀内部隊

(横須賀鎮守府第一特別陸戰隊)

佐世保郵便局經由

第十四海軍軍用郵便所氣付

(四十一)

海軍中島千尋部隊

(第十一潜水艦基地隊)

静岡縣榛原郡金谷郵便局氣付

(大井海軍航空隊(假稱)設立準備委員事務所)

司令、主計長宛

第一京仁丸

第十八播州丸

海軍公報(部内限)第三千九百八十八號

昭和十七年一月八日

一五

軍醫長宛

第二京仁丸 (第二十六掃海隊)

一月十二日迄ニ到達見込ノモノハ

其ノ後ハ

吳海軍病院氣付 (第百三海軍病院) 佐世保郵便局氣付

佐世保郵便局氣付 山田(誠)部隊

(第六設營班)

當隊各艦宛郵便物一括當司令部ニ送付ノ向アルモ自今當分ノ間榛名、金剛宛郵便物ハ直送相成度

(第三戰隊司令部)

○事務所設置

新竹海軍航空隊(假稱)設立準備委員事務所ヲ臺灣新竹市外樹林頭公用地ニ設置シ十二月十九日ヨリ事務ヲ開始セリ

(馬公警備府)

特設砲艦津丸艦裝具事務所ヲ十二月二十日横濱船渠内ニ設置シ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉

第五艦隊司令部事務所ヲ昭和十六年十二月二十七日多

海軍公報(部内限) 第三千九百八十八號 昭和十七年一月八日

摩ヨリ横須賀水交社内(電話鎮守府交換二七〇番)ニ  
移轉セリ

一六

1018

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限)第三千九百八十九號

昭和十七年一月九日(金)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房第八八號

大湊海軍工作部保管中ノ軍艦白鷹還納六米通船一隻ヲ  
雜役船ニ編入シ其ノ公稱番號、船種、所屬等ヲ左ノ通  
定ム

昭和十七年一月九日

海軍大臣

公稱番號	船種	所屬	定數	別記	事
傳馬船	大湊海軍工作部		軍艦白鷹還納ノモ (六米)		

官房機密第二三三號

今次戰爭中未成艦船ノ防衛ニ關シ左ノ通定ム

昭和十七年一月九日

海軍大臣

一 防衛ハ敵飛行機及潜水艦ニ對スル自衛ヲ主眼トシ  
艦裝工事進捗シ裝備ノ對空對潛兵器ヲ使用シ得ル時

期ヨリ之ヲ實施スルモノトス

二 艦裝員長ハ前號ノ實施ニ關シ自衛上必要トスル彈  
藥數ヲ具シ海軍大臣ニ上申シ爾後ノ手續ニ關シテハ  
兵器經理規程中既成艦船ノ規定ヲ準用ス

三 艦裝員長ハ防衛ニ關シ建造所所在地ノ警備區所管  
ノ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ指揮ヲ承ク  
ルモノトス

四 艦裝員長ハ自衛上必要ト認メタル場合對敵行爲ヲ  
執ルモノトス

五 前號ニ因リ生ズルコトアルベキ船體兵器又ハ艦裝  
品ノ損害ハ官ノ負擔トス

### ○通 牒

契庶機密第二號

昭和十七年一月九日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍公報(部内限)第三千九百八十九號

昭和十七年一月九日

一七

1019

統制契約ニ關スル件通牒  
首題ノ件別表ノ通契約締結候條該當品ハ本契約ニヨ  
リ處理相成度  
追テ契約書ハ所要ノ向ニ別途配付ス  
(別表添)

○ 辭令

海軍主計兵曹長 高橋 萬  
千歲海軍航空隊派遣遺隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費  
支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(一)明支  
出官 海軍省經理局長)

○ 雜款

○事務開始  
第十一特別工作部ハ十二月二十五日海仁會佐世保集會  
所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

(別表)

統制契約締結一覽表

(昭和十七年一月九日海軍公報(部内限))

統制契約番號	契約品名	請負者	契約締結月日	契約期間
一六經契第一〇一號	陸上用電線	古河電氣工業株式會社 住友電氣工業株式會社 藤倉電線株式會社 日本電線株式會社 大日電線株式會社 東京製線株式會社 津田電線株式會社 株式會社日立製作所 昭和電線電纜株式會社	一六—四—	至自一七—四—三—
一六經契第一〇二號	電氣銅	日本銅統制組合	一六—一〇—	至自一七—一〇—三—
一六經契第一〇三號	錫	日本錫統制組合	同	同
一六經契第一〇四號	鉛	日本鉛統制組合	同	同
一六經契第一〇五號	アンチモン	同	同	同
一六經契第一〇六號	鋼	日産農林工業株式會社 大日本木材防腐株式會社 山陽木材防腐株式會社 日本鋼管販賣株式會社	一六—五—	至自一七—五—三—
一六經契第一〇七號	鋼管	住友金屬工業株式會社 日本鋼管株式會社 日本特殊鋼管株式會社	一六—七—	至自一七—七—三—
一六經契第一〇八號	鋼管	第二鋼材販賣株式會社	一六—九—	至自一七—九—三—
一六經契第一〇九號	鋼管	東海電極製造株式會社 日本カーボン株式會社	一六—八—	至自一七—八—三—
一六經契第一一〇號	鋼管	淺野スレート株式會社	一六—九—	至自一七—九—三—
一六經契第一一一號	鋼管	住友金屬工業株式會社 古河電氣工業株式會社 株式會社神戶製鋼所 東洋鐵鋼株式會社 日東金屬工業株式會社 古河電氣工業株式會社大阪販賣店	一六—七—	至自一七—七—三—
一六經契第一一二號	鋼管	株式會社神戶製鋼所大阪出張所 大倉商事株式會社大阪支店 日昭電線株式會社 株式會社豐崎伸銅所 三寶伸銅工業株式會社 湯淺伸銅株式會社 阪根金屬商工業株式會社 東京インダストリアル工業株式會社大阪出張所 特殊合金株式會社 株式會社紀長伸銅所 株式會社日立製作所 株式會社日立製作所大阪營業所 株式會社日立製作所 中野伸銅所	一六—九—	至自一七—九—三—
一六經契第一一三號	鋼管	東京芝浦電氣株式會社 エビス電球株式會社	一六—四—	至自一七—四—三—
一六經契第一一四號	鋼管	日本鑄鐵管合資會社	一六—七—	至自一七—七—三—
一六經契第一一五號	鋼管	湯淺蓄電池製造株式會社 高砂工業株式會社 屋井乾電池株式會社 松下乾電池株式會社 株式會社金子電氣商會 日本電業株式會社 朝日乾電池株式會社 東海乾電池株式會社	一六—一〇—	至自一七—一〇—三—
一六經契第一一六號	鋼管	三井株式會社	一六—一—	至自一七—一—三—
一六經契第一一七號	鋼管	帝國藥品株式會社	同	同
一六經契第一一八號	鋼管	株式會社わかもと本舖 榮養と育兒の會	同	同
一六經契第一一九號	鋼管	株式會社田邊元三郎商店	同	同
一六經契第一二〇號	鋼管	日本鉛管鉛板工業組合	一六—二—	至自一七—二—三—
一六經契第一二一號	鋼管	日本水銀統制組合	同	同

(限 内 部)

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百九十號

海軍大臣官房

昭和十七年一月十日(土)

## ○令 達

官房第一一二號

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

第四十三海軍軍用郵便所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム

昭和十七年一月十日

海軍大臣

表中第五海軍軍用郵便所ノ項設置所ノ欄「廣東」ヲ「香港」ニ改ム

第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任」二人「判任」ヲ「專任」三人「判任」ニ改メ「專務」二人「雇員」ヲ加フ

第四十一海軍軍用郵便所ノ項所屬ノ欄「南遣艦隊」ヲ「第一南遣艦隊」ニ改メ同項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第四十三海軍軍用郵便所	第三南遣艦隊ノ一艦	吳鏡守府	第三南遣艦隊	監督官	兼務 一人
			所 長	長	專任 一人 奏任
			所 員	員	專任 二人 判任

(參照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ (昭和十六年六月一日海軍公報(部内限))

## ○通 牒

經物第一號

昭和十七年一月九日

關係各廳長殿

前金拂又ハ概算拂契約者ニ關スル件通知

昭和十三年三月經物第一〇六號第一項第四號ニ依ル首題ノ件左記ノ通承認致候

記

海軍省經理局長

海軍公報(部内限) 第三千九百九十號

昭和十七年一月十日

一九

1022

<p>昭和十二年海軍省告示第十五號ニ依ル死者特別賜金ノ取扱方ニ關シテハ同年經給第五八號ニ依リ實施セラレアル次第ナル處昭和十六年十二月八日以後死歿シ(支那ニ於ケル死歿者ヲ含ム)特別賜金ヲ受クベキモノニハ昭和二年勅令第五十七號ニ依ル一時賜金及海軍外國旅費規則又ハ海軍南洋群島關東州滿洲旅費規則ニ</p>	<p>經給第七號 昭和十七年一月十日</p>	<p>海軍省人事局長 海軍省經理局長</p>	<p>關係各廳長殿 死者特別賜金ニ關スル件通牒</p>	<p>海軍警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額貳千百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(報酬額海軍省)</p>	<p>○ 辭 令</p>	<p>依ル死亡手當ハ之ヲ給セザルコトニ定メラレ候</p>
<p>野崎德三郎(野崎組) 岡山市天瀬二八</p>	<p>合資會社 中京精密工作所 昭和化工株式會社</p>	<p>名古屋市中川區日比野町三三三八番地 東京市王子區袋町一丁目一三八番地</p>	<p>東京市芝區芝浦二丁目三番地 東京市世田谷區上馬町一丁目八四五番地</p>	<p>福田 楯城</p>	<p>海軍中將 古川 鈞三郎 陸軍少將 長岡 壽吉 石坂 敬三郎 陸軍少尉 齋藤 伊之助 陸軍中尉 矢吹 豊彦</p>	<p>古賀 謙次</p>
<p>瀝青配給組合</p>	<p>株式會社 東京龍野製作所</p>	<p>東京市芝區芝浦二丁目三番地</p>	<p>東京市麴町區有樂町一丁目五番地</p>	<p>海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス 但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上報酬額同)</p>	<p>興亞院書記官 石井 茂樹</p>	<p>古賀 謙次</p>

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス	菊池 滋	第五艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス	大庭 秀一
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	堀田 至廣	但シ報酬年額參百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	
支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス	金次 博	但シ報酬年額參百六拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	北村 正勝
興亞院書記官	阿部 勇	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院事務官	榊原 二郎	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院技師	坂 本 尚	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院書記官	加藤 一雄	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院調査官	伊藤 正義	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院事務官	島田 靜夫	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
興亞院技師	大西 淺市	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	大谷 新太郎	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	藤川 種男	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	高倉 一雄	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	樋口 菊郎	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	西川 三次	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將
同	花水 英二	但シ報酬年額參千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)	關 根 將

海軍公報(部内限) 第三千九百九十九號 昭和十七年一月十日



但シ報酬年額千五百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(昭和十六年同)

多田 五郎

海軍省事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千六百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

大沼 孝志

海南警備府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千七百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上昭和十六年同)

文部技師 大石 和二郎

霞ヶ浦海軍航空隊ニ於ケル業務ヲ囑託ヲ解ク

千貳拾圓 井上 肇

(各通) 千貳拾圓 加藤 治正

千貳拾圓 宮崎 善吾

九百六拾圓 白石 通正

第二十一海軍航空廠兵器部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

戸田 敏行

(各通) 大友 力生

第二十一海軍航空廠飛行機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

三宅 弘

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通) 榎場 和彦

松永 嗣雄

第二十一海軍航空廠發動機部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

松崎 英雄

(各通) 關野 幾太郎

吉田 宜澄

第二十一海軍航空廠機庫支廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

磯邊 俊明

第二十一海軍航空廠海支廠ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百七拾五圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

海軍豫備少尉 高橋 頼光

海軍省事務ヲ囑託シテ報酬トシテ金貳百圓ヲ贈與ス

海軍省事務囑託ヲ解ク

(各通)

海軍省事務ヲ囑託ス(以上十四日同)

内務技師 嶋野 貞三

土木事務官 嵯峨根 達雄

第五根據地隊司令部ニ要スル給興及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(昭和十六年十月三十日)

(各通)

第二課附ヲ命ス(海軍運輸部)

囑託 銘苜 朝通

第二課附ヲ命ス(海軍主計特務大尉)

同 横江 透

(各通)

第一課勤務ヲ命ス

海軍中佐 轟 萬作

(各通)

第一課兼第二課勤務ヲ命ス(以上十四日同)

同 平本 道隆

同 廣瀬 弘

海軍少佐 岩城 繁

海軍機關中佐 梶谷 憲雄

海軍主計少佐 阿部 金繁

○ 雜 款

○郵便物發送先

自今本府各廳宛郵便物ハ佐世保郵便局氣付トシテ送達ノコトニ取計相成度  
尙急ヲ要スルモノハ本年官房機密第一一〇四二號ニ依ル海軍定期航空便利用ノコト  
(馬公警備府副官)

○事務開始

第一百海軍軍需部ヲ一月十日海軍省軍需局内ニ設置シ事務ヲ開始セリ  
電話省内 六四八番

○移轉

日進艦裝員事務所ヲ一月六日艦内ニ移轉セリ  
追テ郵便物送付先ハ左ノ通  
吳郵便局氣付  
(日進艦裝員事務所)

○判決

判 決

海軍公報(部内限)第三千九百九十號 昭和十七年一月十日

二三

海軍公報 (部内限) 第三千九百九十號

昭和十七年一月十日

二四

1027

海軍公報(部内限) 第三千九百九十號 昭和十七年一月十日

二五

1028

○正誤(済)  
本月七日令達欄中官房機密第四號ノ二「特設艦船部隊」  
ハ「特設艦船(特設工作艦ヲ除ク)ニ乗組」ノ誤

# 海軍公報 (部内限) 第三千九百九十一號

昭和十七年一月十二日(月)  
海軍大臣官房

## ○令 達

官房第六七七五號

今次戰爭中艦船部隊並ニ特設艦船部隊ニ於テ要スル左記艦營需品ニシテ入手困難ナル場合若ハ防線上必要ト認ムル場合ニ於テハ艦營需品經理規程第二十條第二項ニ拘ラス軍需部ニ於テ供給スルコトヲ得

昭和十六年十二月三十日

海軍大臣

主計長 主管

薪 供餅 飾松 小印 氷

官房機密第一六七號

船舶應急處理委員會規約別冊ノ通定ム

昭和十七年一月八日

陸軍大臣  
海軍大臣  
遞信大臣

内令提  
要登載

### 船舶應急處理委員會規約

- 一、大東亞海域ニ於ケル沈没擱座船舶(艦艇ヲ含ム以下同シ)ノ處理作業及之ガ修理ニ關スル諸般ノ事項ヲ協議スル爲船舶應急處理委員會ヲ置ク
- 二、本會ハ左記事項ノ實施要領ニ關スル委員會案ヲ策定シ主管大臣ニ答申ス
- (一) 沈没擱座船舶ノ調査ニ關スルコト
- (二) 沈没擱座船舶ノ救難作業實施ノ方針ニ關スルコト
- (三) 前號船舶ノ修理實施計畫ノ連絡ニ關スルコト
- 三、本會ハ海軍次官ヲ委員長トシ海軍大臣之ヲ主管ス
- 委員長ノ下ニ委員、副委員及幹事ヲ置ク其ノ組織別表ノ如シ
- 四、委員長ハ會務ヲ總理ス
- 五、委員及副委員ハ議案ヲ審議ス
- 六、幹事ハ委員長ノ命ヲ承ケ委員會ニ關スル庶務ヲ掌ル

(別表添)

海軍公報 (部内限) 第三千九百九十一號

昭和十七年一月十二日

二七

船舶應急處理委員會ニ關スル陸海遞三省

了解事項

- 一、委員會ハ事務室ヲ海軍省構内ニ置ク其ノ執務ニ必要ナル人員及物件等ハ海軍ニテ準備ス
- 二、幹事タル副委員ハ右事務室ニ於テ常勤スルヲ立前トス
- 三、海軍大臣ハ委員會ノ決議ニ基キ常務機關ヲ通シ夫々主務大臣ニ協議シ各大臣ハ所管ニ關スル事項ヲ處理ス但シ帝國領土以外ノ地域ニ於ケル作業ノ實施ハ海軍之ニ任ズ之ガ爲部外救難作業關係ノ人員機材ノ大部ハ海軍之ヲ徵用シ海軍特別工作部ヲシテ直接之ガ統制實施ニ當タラシム
- 右作業ニ必要ナル經費ハ海軍之ヲ負擔ス
- 四、處理船舶ノ修理ニ關シ帝國領土内ニ於テスルモノハ陸、海軍、遞信三省ニ於テ右以外ノ地域ニ於テスルモノハ陸海軍兩者ニ於テ夫々本委員會ヲ通シ協議決定スルモノトス

官房第一三七號

昭和十七年前期下士官、兵(召集中ノモノヲ含ム)ノ任用進級試験、考課表、拔擢名簿、兵進級決定候補名簿ハ左ノ各號ニ依リ取扱フベシ

昭和十七年一月十二日

海軍大臣

- 一、海軍下士官兵任用進級試験規則第三條ノ規定ニ依リ昭和十七年三月ニ於テ施行スベキ任用進級試験(作戰行動上己ムヲ得ズ施行シ難キモノヲ除ク)ハ二月ニ繰上グ施行ス但シ所轄長ハ二月ニ試験ヲ施行シ難シト認ムルトキハ所屬長官ノ認可ヲ受ケ便宜施行スルコトヲ得
- 二、二、三等下士官及下士官ニ任用資格ヲ有スル一等兵ノ定期考課表ハ海軍考課表規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ期日ニ於テ之ヲ調製進達及移牒ス
- 調製期日 二月一日
- 在籍鎮守府司令長官ニ進達(移牒)期日 三月一日
- 三、下士官及一等兵ノ拔擢名簿ハ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ拘ラズ左ノ通取扱フ但シ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ依ルトキハ任用資格ヲ有スルモノ本號ニ依リ取扱フ結果之ヲ失フ者ニ對スル實役停年計算期日ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ此ノ場合ニ於テハ二月一日現在ノ勤務ガ海軍武官任用進級取扱規則第四條ノ規定ニ依リ實役停年計算

期日迄繼續スルモノトシテ實役停年ヲ計算シ拔擢名簿ニ其ノ旨附記ス

實役停年計算期日 一月三十一日

拔擢名簿調製期日 二月一日

候補名簿調製期日 三月一日

四、所轄長ハ海軍兵進級規則第九條第一項ノ規定ニ拘ラズ二月一日現在ノ部下二等兵及三等兵ニシテ進級ニ必要ナル實役停年(實役停年計算期日ヲ一月三十一日トス)ヲ有シ進級試験ニ合格シタル者ニ勤務評點ヲ付與シ此ノ評點ト試験成績、性格、技能、品行等トヲ參酌シテ兵進級決定候補名簿ヲ調製シ同條第三項ノ區分ニ依ル候補者ノ員數ヲ三月一日迄ニ在籍鎮守府司令長官ニ報告ス但シ三月一日ニ於テハ進級資格ヲ有スルモ本號ニ依ル取扱ノ結果之ヲ失フ者ニ對シテハ二月一日現在ノ勤務ガ三月一日迄繼續スルモノトシテ實役停年(實役停年計算期日ヲ二月二十八日トス)ヲ計算シ兵進級決定候補名簿ニ之ヲ登載シ其ノ旨附記ス

○通牒

海軍公報(部内限)第三千九百九十一號 昭和十七年一月十二日

官房第一二七號

昭和十七年一月十日

海軍省副官

關係各工作廳製殿

特殊事業加給ニ關スル件申進

今般達第八號ヲ以テ海軍工員規則改正セラレ潜水艦ニ乘艦航海中ノ作業ニ對シ特殊事業加給ヲ増額相成候處之ガ實施ニ關シテハ左記標準ニ依ルコトニ定メラレ候

記

區分	作業名稱	支給區分	支給額
潜水艦ニ乘艦航海中ノ作業	潜航又ハ沈降試験	一日ニ付	一〇〇
	潜深々々航度	同	一五〇
水上航走	推進機關ニ關スル服業	作業時間	一五〇
	右以外ニ關スル服業	同	〇五

軍令部 戦史機密第一號

昭和十七年一月一日

軍令部 戦史部長

二九



各鎮守府  
各警備府  
各艦隊  
參謀長殿

戰訓ニ關スル件照會

今次大東亞戰爭ニ於ケル戰訓中直ニ之ヲ現下下期諸作  
戰ニ資スベキモノ多々有之ベキ處之等ハ機密作戦記録  
戰時日誌及戰闘詳報ノ提出ヲ俟タズ別箇ニ戰訓トシテ  
成ルベク速ニ提出ノコトニ取計ヲ得度

(註) 右ハ曩ニ送付ノ軍令部戰史機密第一三號「戰  
史資料整理ニ關スル件照會」別紙第一中ノ  
「速ニ提出ヲ要スル戰訓」ニ該當スルモノニ  
有之

經豫機密第三號ノ七

昭和十七年一月十日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

泰國ニ於テ要スル外貨ノ受領方法ニ關ス  
ル件通牒

泰國ニ於テ部外ニ對スル支拂ノ爲要スル外貨(パー  
貨)ハ同國駐在主計科士官(岩田主計中佐)艦隊經費  
分任出納官吏トシテ之ヲ總括處理致居候條所要ノ際ハ

同官ノ保有金ヨリ適宜分割交付又ハ現金交換ノ上受領  
スル外横濱正金銀行バンコック支店經由送金受領ノ  
トニ了知相成度

〇 辭 令

(各通)

海軍中佐 佐藤 述  
海軍機關中佐 田中 千春  
海軍中佐 井上 憲一  
海軍中佐 早川 仁  
海軍航空本部技術部部長兼海軍艦政本  
部部長海軍技術會議議員海軍造兵少佐

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス(同同)

海軍主計中尉 升本 喜徳郎

第一航空隊派遣隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂  
ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(同同)支出官  
海軍省經理局長)

荒木田 定弘

海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬月額四拾圓ヲ給シ部内限判任官ヲ以テ待  
遇セラル

第二課附ヲ命ス(同同)海軍運輸部)

(別表)

委員長  
海軍次官

(備考) 副委員長 陸海軍士官各一名及海務院技師一名ハ幹事ヲ兼ヌルモノトス

(昭和十七年一月十二日海軍公報(部内限))

副 委 員					委 員				
陸軍省交通課長	同軍務局課員	同整備局課員	海軍省兵備局第三課長	同軍務局局員	同兵備局局員	海軍艦政本部部員	海務院書記官	同海務官	同技師

# 海軍公報

(部内限) 第三千九百九十二號

昭和十七年一月十三日(火)

海軍大臣官房

## ○令達

官房機密第三一三號 昭和十七年機密第二八八二號

所屬長官ハ作戰上止ムヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ海軍會計規程及其ノ他ノ規定ニ拘ラズ臨時艦船部隊等ノ經費其ノ他ノ給與掌理者ヲ指定又ハ變更スルコトヲ得掌理者ヲ指定、變更、復舊シタルトキハ速ニ海軍大臣ニ報告スルト共ニ經費所管海軍經理部長ニ通知スベシ  
本令ハ昭和十六年十二月八日ヨリ之ヲ適用ス  
昭和十七年一月十日

海軍大臣

官房第一五八號

昭和十八年達第一〇四號  
ニテ本號廢止

當分ノ間艦隊所屬ノ艦船航海中又ハ支那、支那沿岸若シテ北緯三十度以南ノ地域(臺灣本島及澎湖列島ヲ除ク)ニ在ル艦船部隊ヲ特設ノモノヲ含ムニ於テハ其ノ勤務者ニ對シ必要ニ應ジ生野菜五二〇瓦ニ換ヘ佃煮野菜一八〇瓦ヲ給スルコトヲ得

## ○通牒

經給第八號

昭和十七年一月一日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

航海加俸支給上ノ部隊ノ指揮官ニ關スル件通牒

特設艦船部隊令ニ依ル特設運送船ノ監督官ハ航海加俸支給上海軍給與令第五表備考第五號中「部隊ノ指揮官」ニ該當スルモノト自今解釋ヲ一定致候

## ○辭令

海軍技術會議議員海軍少將 三木 太市

海軍艦政本部技術會議議員ヲ命ス

海軍公報(部内限) 第三千九百九十二號

昭和十七年一月十三日

三一

海軍艦政本部造船造兵監督長海軍少將 田村 英

大阪監理長ヲ命ス(以上一月海軍省)

海軍中佐 後藤 茂

第二課勤務ヲ命ス(一月海軍省人事局)

海軍主計少佐 堤 盛雄

第三百三海軍經理部 海軍主計大尉 篠原 英夫

第三百三海軍工作部 海軍主計大尉 堀田 孝夫

各頭書ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス(一月支出官海軍省經理局長)

海軍造船大尉 中川 勝也(佐廠)

伊號第二十七潜水艦審議委員ヲ命ス

海軍造船少佐 三嶋 忠雄

伊號第二十七潜水艦審議委員ヲ免ス(以上一月海軍艦政本部)

海軍屬 岩本 榮次郎

第二課兼第一課附ヲ命ス

同 山田 芳三郎

第一課兼第二課附ヲ命ス(以上一月海軍運輸部)

○ 雜 款

○ 郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

一月二十五日迄ニ到達見込ノモノハ

(第百一海軍工作部) 佐世保海軍工廠内

(第三百三海軍經理部) 宛 佐世保郵便局氣付

(第三百三海軍軍需部)

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第三千九百九十三號

海軍大臣官房

昭和十七年一月十四日(水)

## ○告示

海軍省告示第一號ノ二

**海軍諸例  
則登載**

第一南遣艦隊ニ艦隊軍法會議ヲ置ク

昭和十六年海軍省告示第一號ノ六ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年一月三日

海軍大臣

参照 昭和十六年海軍省告示第一號ノ六ハ南遣艦隊ニ艦隊軍法會議  
ヲ置クノ件ナリ(諸例則卷四、四五〇ノ一頁)

海軍省告示第一號ノ三

第一南遣艦隊軍法會議ヲ南遣艦隊軍法會議ノ後艦隊軍法  
會議ニ指定ス

昭和十七年一月三日

海軍大臣

## ○令達

官房第六〇八五號ノ二

昭和十六年度歳出科目中左ノ通追加ス

昭和十六年十二月二十四日

臨時部

海軍大臣

款	項	目	解	疏	會計科目 電信略號
救難費	伊勢第六十一 潜水艦救難費	監督諸費	造船費		ケナ ケラ ケム ケツ ケリ ケヌ
(災害費)			建造物 復造物		
	佐世保鎮守府管内 建造物風水害復舊費				

海軍公報(部内限) 第三千九百九十三號 昭和十七年一月十四日

三三

1037

官房第一三二號

昭和十六年官房第七八九號中左ノ通改正ス

昭和十七年一月三日

海軍大臣

海軍諸例  
則登載

「南遣艦隊軍法會議」ヲ「第一南遣艦隊軍法會議」ニ改ム

參照 昭和十六年官房第七八九號ハ支那事變中支那方面艦隊等ニ海軍法務官、餘事及警査配員ノ件ナリ(諸例則卷一、一四六ノ三頁)

○通牒

官房機密第四六四號

昭和十七年一月十四日

海軍省副官

各廳長殿

郵便物ニ關スル件申進

昭和十六年官房機密第三〇九一號通牒首題ノ件別冊郵便物ニ關スル例規中左記ノ通改メラレ候

記

附錄 所在地區別符表末尾ニ

グ	ワ	ム	イ	參
ウ	エ	ー	ク	イ
			四	

ヲ、同部隊區別符表

末尾ニ「第六十五警備隊 I 壹」ヲ加フ

軍務一第八號

昭和十七年一月十四日

海軍省軍務局長

海軍諸例  
則登載

關係各廳長殿

文官從軍服制改正ニ伴ヒ判任官二等以下ノ帽前章ニ關スル件申進

今般文官從軍服制改正セラレタル處首題ニ關シテハ昭和十七年勅令第十五號附則第二項ハ適用セザルコトトシ速ニ新規ノ帽前章ニ改装セシメラレ度意向ニ付可然取計相成度

軍務一機密第二七號

昭和十七年一月十四日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

公試通報ノ件申進

艦船造修規則第五百十六條又ハ兵器造修規則第二百十

二條ノ規定ニ依ル通報(特ニ指示セラレタルモノヲ除ク)ハ同型ノ第二艦以降ニ在リテハ異狀アリタル場合ヲ除クノ外書類ヲ以テ爲スコトニ一定セラレ候

經給機密第二號

昭和十七年一月十二日

海軍省 經理局長

關係各廳長殿

中等學校最高學年在學者職業實習ノ場合ノ給與取扱ニ關スル件通牒

首題ノ件左記ノ通定メラレ候

記

- 一 初給給料、同賃錢其ノ他ノ給與ニ關シテハ當該學校卒業者ト看做シ雇員傭人又ハ工員トシテ取扱フコトヲ得
- 二 前號ノ者就職ノ爲召喚シタルトキハ規定ノ旅費(工員ハ昭和十二年官房機密第三八〇九號ニ依ル旅費)ヲ支給ス

機密機密兵無線第一〇號

昭和十七年一月十四日

海軍公報(部内限)第三千九百九十三號

昭和十七年一月十四日

三五

海軍艦政本部 總務部長  
海軍航空本部 總務部長

海軍航空技術廠 總務部長

第一、第二、第六十一 海軍航空廠長

第二十一、第六十一 海軍航空廠長

横須賀、鈴木、大村 海軍航空隊司令

佐伯、佐世保、大村 各 廳

外戰部隊、外地所在海軍航空廠ニ對シ空輸補給スル航空機ニ裝備スベキ無線兵器ノ裝備實施、處理其ノ他ニ關スル件照會(通信長主管)

昭和十六年六月十八日航本機密第五九八〇號照會(昭和十六年六月十九日海軍公報(部内限)參照)及昭和十六年十二月十六日航本機密第一二八三二號照會(昭和十六年十二月十八日海軍公報(部内限)參照)中無線兵裝ノ實施並ニ兵器處理其ノ他ニ關シテハ當分ノ間左記要領ニ依ルコトニ取計相成度(昭和十六年十二月三十一日官房機密第一二六六三號(昭和十六年十二月三十一日海軍公報(部内限)參照))

- 一 外戰部隊並ニ第六十一海軍航空廠其ノ他外地ニ新

設サルベキ海軍航空廠ニ補給ノ目的ヲ以テ空輸スベキ飛行機(完備)ニ對スル無線兵裝ハ内地ニ於ケル空輸準備基地ノ海軍航空隊、海軍航空廠等(航空隊所在地ニ在リテハ航空隊トス)之ヲ擔任實施スルモノトス

但シ

(一) 無線歸投方位測定機ノ裝備ハ當分ノ間海軍航空技術廠之ヲ擔任シ各部ニ對シ裝備技術ノ教育ヲ行ヒ海軍航空技術廠長ニ於テ適當ト認ムル時機ヨリ前段所載ノ分擔ニ移スモノトス

(二) 名古屋海軍航空監督官ニ於テ空輸準備ヲ直接所掌スルモノニ對シテハ海軍航空技術廠ノ擔任トス  
右裝備ニ要スル兵器ハ海軍航空本部ヨリ豫メ各部ニ送付スル空輸豫定表(豫定外ノモノニ對シテハ其都度通知)ニ依リ左ノ分擔ニ從ヒ各海軍軍需部ヨリ送付保管委託ヲ爲シ置クモノトス

横須賀海軍軍需部

霞浦海軍航空隊  
本更津海軍航空隊  
横須賀海軍航空隊  
鈴鹿海軍航空隊  
名古屋海軍航空監督官事務所

吳海軍軍需部

佐世保海軍軍需部

吳海軍航空隊  
佐伯海軍航空隊  
佐世保海軍航空隊  
大村海軍航空隊  
鹿屋海軍航空隊

(註)

(一) 急ヲ要シ保管委託無線兵器不足ノ場合ハ所在海軍航空隊ニ供用中ノモノヲ流用裝備スルコトヲ得

右ノ場合擔任海軍軍需部ハ海軍航空隊ヨリノ通知ニ依リ海軍航空隊ニ對シ兵器補充ヲ爲スモノトス

(二) 裝備擔任廳ニ對スル兵器ノ保管委託數ハ其ノ都度海軍艦政本部ト連絡ノ上適當數ノ剩餘ヲ保持スルモノトス

三 艦船部隊ハ右航空機受領ノ際裝備シアル無線兵器ノ供給ヲ受ケタルモノトシ之ガ爲定數過剩トナリタル場合ハ速ニ過剩數ノ兵器ヲ所管海軍軍需部ニ送付還納スルモノトス

四 空輸機ニ對シ無線兵裝ヲ實施セル海軍航空隊、海軍航空廠等ハ空輸實施ノ都度速ニ別表書式ニ依リ空



輸機裝備ノ無線兵器種別數等ヲ委託元海軍軍需部及  
海軍艦政本部ニ通知スルモノトス  
空輸實施廳ハ空輸ヲ實施セバ其ノ都度速ニ其ノ旨ヲ  
無線兵裝實施廳ニ通知スルモノトス

五 艦船部隊ニシテ右空輸ニ依リ無線兵器受領ノ際ハ  
其ノ都度速ニ別表書式ニ依リ受領無線兵器ノ種別數  
等ヲ所管海軍軍需部及海軍艦政本部ニ通知スルト共  
ニ兵器經理規程所定ノ受込手續(右兵器受領ニ依リ  
定數過剩トナリタル場合ハ還納手續ヲ併セ)ヲ爲ス  
モノトス

六 空輸補充ノ途上(委託保管中)ニ生ジタル兵器ノ  
故障缺損ニ對シテハ空輸(委託保管)應ノ責任トシ  
所定ノ手續ヲ行フモノトス  
(別表一葉添)

海運機密第一一號

昭和十七年一月十三日

海軍運輸部長

關係各廳長殿

人員及軍需品ノ鐵道輸送手續ニ關スル件  
申進

貨客ノ輻輳ニ伴ヒ之ガ計畫輸送ノ要アルニ付首題ノ件

海軍公報(部内限)第三千九百九十三號

昭和十七年一月十四日

三七

來ル二月一日ヨリ當分ノ間別冊ニ據リ實施ノコトニ定  
メラレ候  
(別冊添)

○ 辭 令

有松清一郎

海軍軍醫學生ヲ免ス(海軍省)

○ 雜 款

○郵便物發送先  
自今左ニ依リ發送相成度

司令、隊宛  
隊機關長、軍醫長宛  
主計長宛

潮 漣 曙  
(第七驅逐隊)

司令、機關長宛  
軍醫長、主計長宛

時 雨 白 露  
(第二十七驅逐隊)

司令宛  
機關長、軍醫長宛

第八拓南丸  
多 摩 丸

主計長宛

大井丸

(第三十一掃海隊)

○書類送付ニ關スル件照會

本隊宛書類ニシテ殘留隊ニモ關係アル書類ハ其ノ寫ヲ一部(計二部)、並ニ諸練習生特技兵採用試験問題ハ殘留隊及支隊ノ分トシテ別ニ二部(計三部)送付相成度

(高雄海軍航空隊)

當隊各艦當分ノ間分離行動ニ付自今當隊宛書類ニシテ各艦ニ關係アルモノハ其ノ寫ヲ各艦宛直送ノ上其ノ旨當隊へ通知方取計相成度

(第二十七驅逐隊)

(別表書式)

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限))

空輸機裝備無線兵器發送(受領)通知票					
空輸元名	空輸先名	搭載無線兵器名	數量	裝備セル航空機ノ 機種並ニ機體番號	機和變更 増加機
別	記	事			

昭和十七年一月十四日海軍公報（部内限）別冊

海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續

1044

海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續

海軍人員及海軍關係貨物ノ鐵道輸送ハ當分ノ内左ノ各號ニ依リ取扱フモノトス

一、人員及託送手荷物ノ輸送

(一) 輸送ノ申込

海軍軍衙又ハ部隊ニ於テ人員及手荷物ヲ輸送セントスル場合ハ様式第一ニ依ル「海軍人員鐵道輸送申込書」ヲ作成シ左ノ區分ニ依リ申込ムモノトス但シ急ラ要スル場合ハ電報又ハ電話ニテ申込ヲ爲シ直ニ當該申込書ヲ送達スルモノトス

記號	區分	申込期日	申込先
(イ)	輸送區間ガ二鐵道局以上ニ亙ル臨時列車ノ場合	實施七日前	海軍運輸部
(ロ)	輸送區間ガ一鐵道局内ノ臨時列車及二鐵道局以上ニ亙リ一車以上ノ増結ヲ要スル見込ノ場合	實施五日前	發驛所管鐵道局
(ハ)	(イ)(ロ)以外ノモノ	可成速ニ	發驛

(註) 臨時列車ニ依ルモノハ人員概テ四百名以上ナルコト

(二) 輸送計畫及實施

前號(イ)ニ依ル輸送申込書ヲ受領シタル海軍運輸部ハ輸送計畫ヲ樹テ鐵道省ニ申込ミ様式第二ニ依ル

二、貨物輸送

「海軍鐵道輸送計畫表」ヲ作成シ之ヲ關係海軍軍衛又ハ部隊ニ通知ス  
(ロ)ノ場合ハ發驛所管鐵道局ニ於テ輸送計畫ヲ樹テ當該海軍軍衛又ハ部隊ニ通知ス

(一) 發送豫想

(イ) 海軍省各局、海軍航空本部、海軍艦政本部、海軍施設本部、水路部、鎮守府、警備府及海軍監  
督官ハ一旬間ニ輸送ヲ要スル海軍關係貨物ニ對シ様式第三ニ依ル「海軍關係貨物鐵道輸送要求概  
要書」(以下單ニ概要書ト稱ス)ヲ作成シ前旬一ノ日迄ニ海軍運輸部ニ到着スル如ク送達スルモ  
トス

(ロ) 海軍運輸部ハ前號ノ概要書ニ依リ「海軍關係貨物發送豫想書」ヲ作成シ前旬三ノ日迄ニ鐵道省  
運輸局ニ通知スルモノトス

(註一) 本手續ニ於ケル軍用貨物トハ鐵道軍用輸送券ヲ發行シテ託送スル貨物ヲ謂フ

(註二) 海軍關係貨物トハ軍用貨物、民間ヨリノ納入品、其ノ他軍用トナルベキモノ等海軍ニ關  
スル一切ノ貨物ヲ謂フ

(二) 輸送ノ申込

海軍軍衛又ハ部隊ニ於テ軍用貨物及軍用貨物證明書附貨物ヲ輸送セントスル場合ハ前者ニ對シテハ

様式第四ニ依ル「海軍軍用貨物鐵道輸送申込書」ヲ後者ニ對シテハ様式第五ニ依ル「海軍軍用貨物證明書附貨物鐵道輸送申込書」ヲ作成シ左ノ區分ニ依リ申込ムモノトス但シ急ヲ要スル場合ハ電報又ハ電話ニテ申込ヲ爲シ直ニ當該申込書ヲ送達スルモノトス

(1) 所要貨車三輛以内ノモノ

記號	區	分	申込期日	申込先
(イ)	列車又ハ連絡船ヲ指定スルモノニシテ一鎮守府又ハ一警備府部下軍衛合セテ發着驛トモ同一ノモノ三輛以内ノ場合		實施前々日	鎮守府又ハ警備府經由發着驛
(ロ)	其ノ他		實施前々日	發着驛

(2) 所要貨車四輛以上十輛以内ニシテ發着驛トモ同一ノモノ  
 (註) 「ロ」號ニ對シテハ輸送申込書ノ提出ヲ省略スルコトヲ得

記號	申込者	發送區域	到着區域	申込期日	申込先
(イ)	横須賀鎮守府部下軍衛及部隊	東京鐵道局管内	東京、名古屋、新潟、仙臺鐵道局管内	實施前七日	横須賀鎮守府
(ロ)	舞鶴鎮守府、大阪警備府部下軍衛及部隊	大阪鐵道局管内	大阪、名古屋、廣島鐵道局管内	實施前七日	舞鶴鎮守府部下軍衛、大阪警備府部下軍衛

(ニ)	(ハ)
佐世保鎮守府部下軍 衛及部隊	吳鎮守府部下軍衛及 部隊
門司鐵道 局管内	廣島鐵道 局管内
門司、廣島鐵道局 管内	廣島、大阪、門司 鐵道局管内
實施 七日前	實施 七日前
佐世保鎮守府	吳鎮守府

(3) (1)及(2)以外ノモノハ實施七日前迄ニ海軍運輸部ニ申込ムモノトス但シ鎮守府、警備府部下軍衛及部隊申込ノモノハ鎮守府又ハ警備府ヲ經由スルモノトス

(三) 輸送計畫及實施

前號ニ對スル輸送計畫及實施ハ左ノ區分ニ依ル

(1)イノ場合 鎮守府又ハ警備府ニ於テ處理ノ上申込軍衛部隊ニ通知ス

(ロ)ノ場合 發驛處理

(2)ノ場合 鎮守府又ハ警備府ヨリ發驛所管鐵道局ニ申込ミ處理ノ上輸送實施計畫ヲ申込軍衛部隊ニ通知ス

(3)ノ場合 海軍運輸部ヨリ鐵道省ニ申込ミ處理ノ上軍用貨物ニ對シテハ様式第二ニ依ル「海軍鐵道輸送計畫表」ヲ作成シ又軍用貨物證明書附貨物ニ對シテハ適宜ノ方法ニ依リ各關係鎮守府、警備府及軍衛又ハ部隊ニ通知ス

本手續ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ實施スルモノトス



様式第一

海軍人員鐵道輸送申込書		處理方	輸送計畫表		
申 込	日次	昭和 年 月 日			
	軍 衛 部 隊 名				
	番 號				
	取 扱 者 及 號	電 話 番 號			
種 別					
輸 送 人 員	准以士官上	下士官兵	工 員	共ノ他	計
託 送 手 荷 物	個		庇		立方米
所 要 客 車	口	口ハ	ハ、ハフ		計
輸 送 區 間	出 發	線	驛	月 日 午 前 後	時 分
	到 着	線	驛	月 日 午 前 後	時 分
※ 實 施	出 發 時刻 / 月 日				
	輸 送 列 車				
	到 着 時刻 / 月 日				
運 賃 支 拂 軍 衛					
運 賃 支 拂 種 別					
記 事					

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限)別冊別表)

備考

- 種別ハ兵員又ハ工員輸送等ノ別ヲ記入スルコト
- 軍屬ノ輸送人員記入方ハ身分ニ依リ區分シ准士官以上、下士官兵欄ニ便宜記入スルコト
- 所要客車ハ二等ハ口、一等、三等合造車ハ口ハ、三等車ハハ、ハフ欄ニ其ノ所要車數ヲ計上スルコト、前記以外ノ客車ヲ必要トスル場合ハ空欄ニ記入スルコト
- ※實施欄ハ申込箇所ニ於テ記入ヲ要セス
- 運賃支拂種別欄ニハ供用令、下士官兵割引證、現拂普通、后拂普通等ノ別ヲ記入スルコト
- 記事欄ニハ輸送目的、人員ノ身分(軍屬ナルカ否カ)ヲ記入スル外輸送上ノ參考事項又ハ希望
- 發驛所管鐵道局ニ申込ム場合ニ限リ二葉ヲ送達シ、内一葉ハ鐵道局ヨリ申込箇所ニ對スル輸送事項ヲ記入スルコト
- 申込番號ニハ申込軍衛又ハ部隊ノ略稱ヲ附スルコト

「例」横須賀海兵團ハ「横海團第 號」

様式第二

海軍 鐵道輸送計畫表	計畫表所 配付個	部	數	輸送計畫番號		備考		
				發送軍部	隊			
海軍 鐵道輸送計畫表	計	部	數	品名			備考	
				輸送人員	准士官以上			
					下士官兵等			
					其ノ他			
				貨物又ハ物 數量	箇(箱、桶)數			
					容積(立方米)			
					重量(噸)			
				所要車輛	客車			
					有蓋車			
					無蓋車			
					其ノ他			
				換算輛數(長)				
輸送列車番號								
出發	驛							
	時刻 / 月日							
到着	驛							
	時刻 / 月日							
摘要								
						備考 一、所要車輛イハ二等、ロハ二等、ハハ三等、イロハ一、二等合造客車、ロハハ二、三等合造客車 二、分ヲ示ス數字ノ下方ニ橫線ヲ附シタルモノハ午後ノ時刻ヲ示ス 三、數量ノ下ニ附セル橫線ハ危險品ヲ示ス ハ十七噸積無蓋車ヲ、チキハ二十五噸、オチキハ三十五噸積長物車、シキハ大物車ヲ示ス 車ヲ、ワハ十噸、ウムハ十五噸、ウキハ二十五噸積有蓋車ヲ、トハ十噸、トムハ十五噸、トラ 一、所要車輛イハ二等、ロハ二等、ハハ三等、イロハ一、二等合造客車、ロハハ二、三等合造客		

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限)別冊別表)

様式第三

昭和 年 月 旬分

海軍關係鐵道輸送要求概要書

軍 衛 名

類	種 品 別		發 驛	着 驛	箇 數	重 量 (噸)	所 要 及 輛 車 種 數	一 發 希 望 車 數 日 分 送	發 送 元	受 領 先	記 事
	別	名									
大 量 貨 物	軍 用										
	納 入 品										
	其ノ他										
其ノ他	軍 用										
	納 入 品										
	其ノ他										

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限)別冊別表)

- 備 考
- 1 大量貨物トハ輸送量大量ニシテ一日分ノ輸送量ヲ定メ計畫的ニ輸送スルヲ便宜トスル貨物ヲ云フ
  - 2 「軍用貨物」トハ鐵道軍用輸送券ヲ發行シ輸送スル貨物、「納入品」トハ海軍以外ノ官廳、公共團體又ハ民間會社ヨリ海軍軍衛及部隊宛輸送スル貨物、「其ノ他貨物」トハ海軍關係民間會社相互間ニ發送又ハ到着スル原料素材及所用品ヲ云フ
  - 3 品名ハ概括名稱ヲ以テ記入スルコト
  - 4 箇數ノ豫想困難ノモノハ記入ヲ省略スルコトヲ得
  - 5 潤大貨物ハ參考トシテ一箇ノ長、幅、高及容積等ヲ記事欄ニ記入スルコト
  - 6 記事欄ニハ參考ト爲ルベキ事項ヲ記入スルコト

様式第四

處理方	申込番號	發送軍衛部隊				
		受領軍衛部隊				
輸送計畫表	海軍軍用貨物鐵道輸送申込書	品名				
		箇數 (棚、輛)				
		容積 (立方米)				
		重量 (噸)				
		所要貨車種及車數				
		使用鐵道車輛選定上參考トナルベキ事項				
	軍衛隊	輸送區間	發完了日	準備次		
			出發月日	驛		
		※實施	到着月日	驛		
			出發時刻/月日	輸送列車		
電番	到着時刻/月日	摘				
取扱者	電話號	要				

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限)別册別表)

備考

- 一、括弧ヲ附シ記入ノコト
- 二、長尺物積載ノ場合荷重負担車ノ外ニ遊車ヲ必要トスルモノハ所要貨車欄ニ「遊車ノ車種及輛數」
- 三、横須賀海軍建築部ハ「横建第 號」
- 四、申込番號ニハ各申込軍衛又ハ部隊ノ略稱ヲ附スルコト
- 五、片ヲ(實施事項記入ノ上) 申込箇所ニ送付シ、一片ハ控トス
- 六、鎮守府又ハ警備府ニ申込ノモノハ三片ヲ提出シ、鎮守府又ハ警備府ハ一片ヲ所管鐵道局ニ、一
- 七、※實施欄ハ申込箇所ニ於テ記入ヲ要セズ
- 八、積卸線ノ指定アルモノハ驛名欄ニ附記スルコト
- 九、特ニ出發又ハ到着日時刻ノ指定ヲ要スルモノハ月日欄ニ記入スルコト
- 十、乙ノ發着月日ハ輸送期間ノ概要ヲ記入スルコト
- 十一、ノ申込ニ使用スルモノトス
- 十二、本申込書ハ甲(赤色)、乙(黑色)ノ二種トシ、甲ハ迅速ヲ要スル輸送申込ニ、乙ハ其ノ他輸送

様式第五

海軍軍用貨物證明書附貨物鐵道輸送申込書	申請者					
	品名					
	筒數					
	重量(噸)					
	所要貨車 車種及車數					
	發驛					
	著驛					
	發送 希望月日					
	發送 一日分					
	希望車數					
	受荷者					
摘要						
軍部 申込衛隊						
昭和						
年						
月						
日						
電話番號						

備考

三、筒數及重量ハ所要貨車ノ基礎トナルベキモノヲ記入スルコト  
 「例」 佐世保海軍建築部ハ、「證佐建第 號」  
 二、申込番號ニハ「證」ノ文字及申込軍衛又ハ部隊ノ略稱ヲ附スルコト  
 一、積卸線ノ指定アルモノハ驛名欄ニ附記スルコト

(昭和十七年一月十四日海軍公報(部内限)別冊別表)